

マーケット・レポート

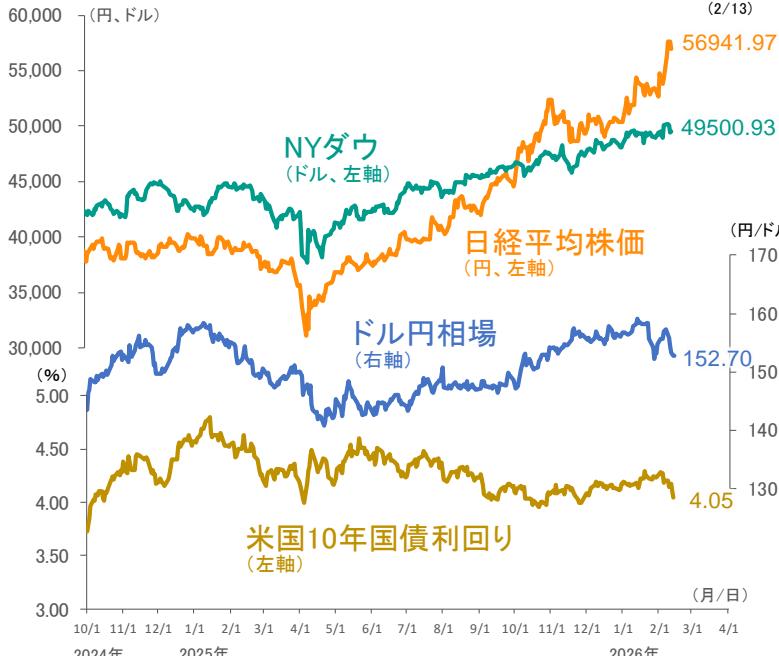
Weekly Guide

2026.2.16

りそなアセットマネジメントの
YouTubeチャンネルで、
音声付きの解説動画を
ご視聴いただけます！



主要マーケット指標



【出所】ブルームバーグ等の公表データに基づき、りそなアセットマネジメント作成

先週は、1月雇用統計とCPIの発表で米雇用市場の底堅さとインフレの落ち着きが示されたものの、米国株市場では大型成長株に対する売りが続き、米主要株価指数はマイナスで終わりました。週間騰落率は、NYダウ▲1.2%、NASDAQ総合指数▲2.1%、独DAX指数+0.8%、日経平均株価は5.0%上昇し一時5万8000円越えまで高値を更新しました。債券は内外ともに買われ、10年国債利回りは米国が前週末比▲16bpの4.05%、独は同▲9bpの2.76%、日本は同▲1bpの2.23%で引けました。ドル円相場は日米金利差縮小を背景に円が買い戻され、先月23日の日米当局による「レートチェック」実施直後に付けた1ドル=152円台まで円高・ドル安が進みました。

今週は、日・米の10-12月期GDP、物価指標が注目材料となります。国内では18日に特別国会が召集され、成長戦略、消費減税に関する高市首相の発言機会が増えるとみられ、注目されます。

当面の注目イベント

- ◆日・10-12月期GDP 速報値 (16日)
- ◆日・特別国会召集 (18日)
- ◆日・1月コアCPI (20日)
- ◆米・12月コアPCEデフレーター (20日)
- ◆米・10-12月期GDP 速報値 (20日)
- ◆グローバル総合PMI 2月 速報値 (20日)

世界株価の業種別指数における年初来騰落率では、過去3年間市場平均を下回るパフォーマンスだったエネルギーや生活必需品などが上位となる一方、これまで株価上昇をけん引してきた情報技術、通信が出遅れています

世界株価指数(MSCI ACWI)・業種別株価 年間騰落率



※米ドル建て

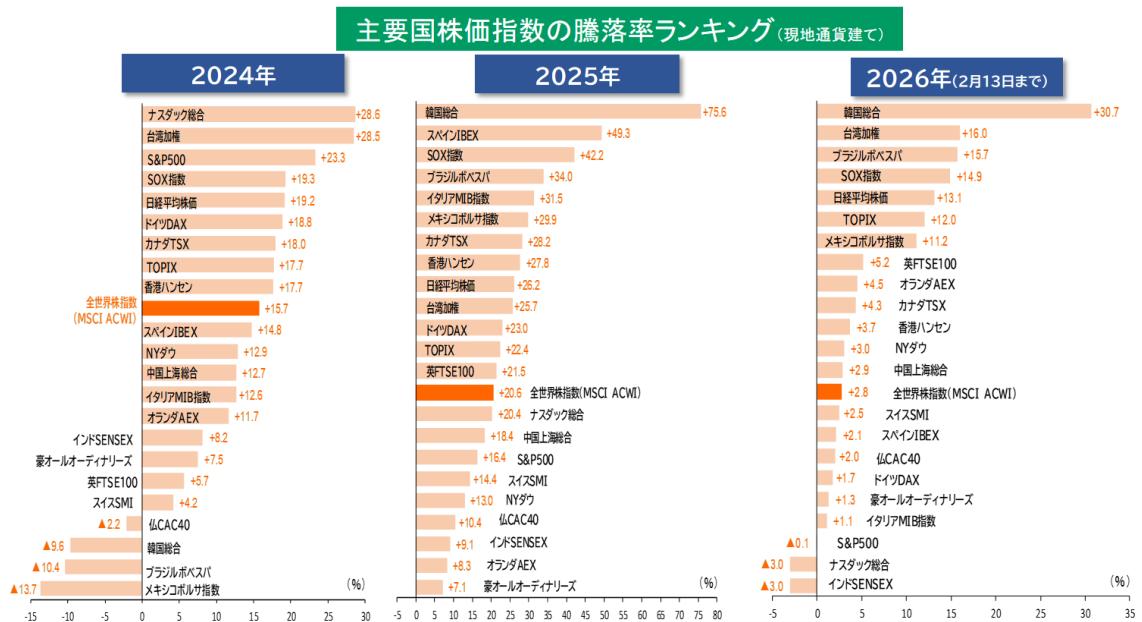
【出所】ブルームバーグ等の公表データに基づき、りそなアセットマネジメント作成

※最終ページの「当資料に関するご留意事項」を必ずご覧ください。



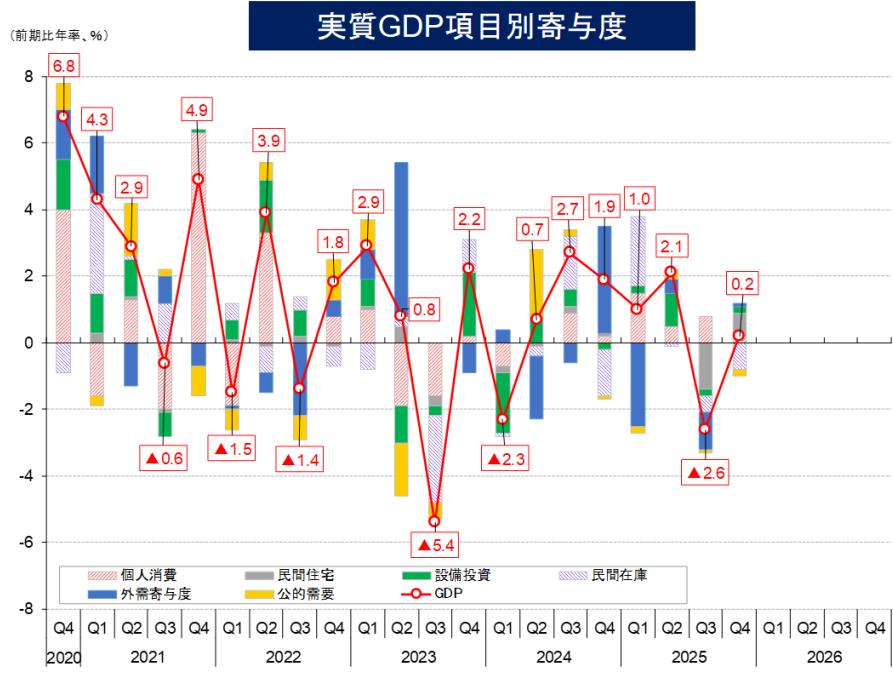
りそなアセットマネジメント

主要株価指数の年初来騰落では、NASDAQ総合指数など米国主要株価指数が世界株価指数に劣後しています。米国の大型成長株に偏り過ぎた資金を他地域・業種に分散する動きを反映しているとみられます



【出所】ブルームバーグ等の公表データに基づき、りそなアセットマネジメント作成

日本10-12月期GDP速報値は前期比年率+0.2%(予想+1.6%)と2四半期ぶりにプラス成長となりました。制度変更前の駆け込みの反動で前期大きく落ち込んだ住宅が伸びた他、個人消費は7四半期連続プラスでした



【出所】Haver Analyticsの公表データに基づき、りそなアセットマネジメント作成

次回は 2026年3月2日 発行予定です

〈当資料に関するご留意事項〉

■当資料は、りそなアセットマネジメント株式会社が投資環境についてお伝えすることを目的として作成したものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。■当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。■当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、りそなアセットマネジメントが設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。なお、掲載されている見解は本資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。また、事前の連絡なしに変更されることがあります。■投資信託は、値動きのある資産を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元本を割り込むことがあります。■投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しします最新の「投資信託説明書(交付目論見書)」および一体としてお渡しする「目論見書補完書面」を必ずご確認のうえご自身でご判断ください。